

事 業 報 告

第 2 4 期

〔 自 2023 年 4 月 1 日
至 2024 年 3 月 31 日 〕

仙 台 空 港 鉄 道 株 式 会 社

第24期 事業報告

I 事業の概況

仙台空港アクセス線は2007年3月18日に開業し、2024年3月末までのご利用者数は、通算で5,100万人を超え、仙台空港へのアクセス、また、沿線住民や企業等の通勤・通学の足としての役割を着実に果たし、17周年を迎えることができました。皆様の常日頃のご支援の賜物と改めて感謝申し上げます。

また、開業以来お陰様で「お客さま、社員の死傷事故“0”」、「重大事故“0”」を継続しております。

第24期は、新型コロナウイルス感染症が感染症法上5類に移行したこともあり、社会環境は日常を取り戻しつつあることから、コロナ禍からの再スタートの年に位置付け事業を進めてまいりました。

そのため、当期のご利用者数は、対前期比で15.2%の増の約400万人、一日平均では、10,922人と増加し、仙台空港駅はコロナ禍前の2019年度と比較しますと93%の利用者数に止まっているものの、杜せきのした駅や美田園駅の利用者数が過去最高となったことから、全体の利用者数も過去最高となりました。

こうしたことから、当期の収支については、収入は、対前期比で利用者が大幅に増加したことに伴い運輸収入が増加した一方、経費は、水道光熱費が当初見込みを大きく下回ったことなどから、当期の営業損益は3156万5千円の黒字となりました。加えて、宮城県から、運行体制の維持・確保に向けた経営支援金等として、約1億円が交付されたことなどから、当期純損益は1億2549万5千円と大きな黒字を計上し、2期連続の黒字決算となりました。

1 鉄道事業の取り組み

鉄道事業では、安全・安定輸送の確保を最優先に、お客さまのより一層の満足度向上に向けた取り組みを展開するとともに、収入の確保に努めました。

(1) 安全・安定輸送に向けた取り組み

① 教育訓練等の推進

安全面では、鉄道に従事する社員が的確に業務を遂行し、お客さまに安心してご利用いただけるよう、教育・訓練の充実を図りました。特に総合異常時訓練では、大規模地震発生時にトンネル内に列車が停車したことを想定した降車誘導訓練を、実車両を使用して実施したほか、他会社の事故復旧訓練にも積極的に参加するなど対応力の強化に努めてまいりました。

② 社内の安全体制の充実等

社内の安全管理体制については、年度初めに安全管理会議にて安全の基礎である安全基本方針・安全目標・安全重点施策を定めるとともに、毎月「安全推進委員会」を開催し、経営陣と現場管理者が自社・他会社等において発生した事象の把握とその対応策について検討し、定例訓練やCS委員会を通じ社員に徹底しました。

また、多客輸送期には経営トップによる安全総点検を実施するとともに、輸送障害発生時や列車運行ダイヤに乱れが生じる可能性がある場合には輸送対策本部を設置し、列車の運転本数の検討やお客さまへの情報の提供など、状況に応じた対応を行いました。また、社内安全業務監査を行い、業務の執行状況の確認と課題の抽出及びその改善に努めるなど、全社を挙げて安全の確保に向けた取り組みを進めました。

土木構造物や信号・通信設備、車両等のハード面では、計画的に点検や修繕・更新を行い、安全性の確保を図りました。

③ お客さまの安全対策や満足度の向上

お客さまへの対応としては、社員によるお客さまへの声かけ・誘導案内の強化を行ってまいりました。特に体の不自由なお客さまや小さなお子様連れのお客さま、ご高齢のお客さまの駅構内での転倒や転落事故防止に努めてまいりました。

また、社員一人ひとりの気づきやお客さまからいただいたご意見、ご要望は「サービスメモ」として共有し、サービス品質向上に向け活用してまいりました。さらに海外からのお客さまにも分かりやすい列車案内ができるよう、駅構内や列車内における英語放送及び列車案内表の4か国語表記の実施、タブレット端末やポケトーク等を活用した多言語による案内、情報提供を実施し、お客さまの満足度向上に努めました。

(2) お客さまの利便性と輸送力の向上

2024年3月のダイヤ改正では、10時台の時刻を20分間隔に変更するなど、お客さまに分かりやすいダイヤに見直し利便性の向上を図りました。

また、お盆、年末年始等の繁忙期や、東北・みやぎ復興マラソン、仙台空港祭など、より多くのお客さまのご利用が見込まれる沿線のイベント開催時には、車両の増結を行うことにより輸送力の向上を図りました。

(3) 新型コロナウイルス感染症に関する取り組み

お客さまに安心してご利用いただくため、列車内や駅構内での感染防止対策や広報活動を実施しました。なお、新型コロナウイルス感染症が感染症法上の5類に移行した後は、この取り組みを終了しております。

2 鉄道事業以外の取り組み

鉄道事業以外では、代理店による駅舎や車両内の広告掲出料が減少する中で、引き続き直営による有料広告物の掲出依頼を推進しました。

構内営業のうち自動販売機の収入は、コロナ禍で落ち込んだご利用者が徐々に戻ってきたことによりほぼコロナ禍以前の水準となりました。

また、遊休資産の活用として、旧施設管理所や高架下駐車場の賃貸を継続し有効活用に努めました。

ロケーションサービスでは、美田園駅で撮影が行われたテレビドラマが話題となって、美田園駅ご利用者の増加とグッズの売り上げ増加に繋がりました。

さらに、キャラクターグッズをはじめとした鉄道グッズの販売は、コロナ禍前に行われていた各種イベントが再開されたことから、出店参加するとともに仙台空港駅構内での販売会も実施しました。また、インターネットを活用した販売の拡大に努めました。

3 今後の見通しと対処すべき課題

第25期については、社会環境がコロナ禍以前の日常を取り戻しつつあり、日本経済は堅調に推移しているものの、ロシアによるウクライナ侵攻やイスラエルのガザ侵攻などに伴う政情不安や世界的な物価の高騰、日銀の金融政策の転換の動きなどにより、経済活動の先行きが不透明な状況にあると認識しております。

このような状況にあって、ご利用者の増加による増収を見込み、経費を安全安心のための費用に厳選したとしても、開業から17年が経過したことから、車両や通信機器などの鉄道設備の計画的な更新や、突発的な保守修繕のための費用の大幅な増加が見込まれるなど、弊社を取り巻く経営環境は厳しい状況が続くものと思料されます。

引き続き、安全、安定輸送を提供するため、社内における感染症の発生防止に努めるとともに、駅舎や車両内での凶悪犯罪への警戒や対応についても強化してまいります。

また、財務改善については、数年後の大きな資金需要に対応するため、中期経営計画（後期6か年）に掲げた財務基盤の強化に向けた取組を着実に推進してまいります。加えて、お客さま目線による更なるサービスの向上を図るなど、皆様に愛され、信頼される鉄道を目指して努力してまいります。

各関係機関の皆様におかれましては、弊社の事業の推進につきまして、何とぞ一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

4 設備投資の状況

当期中に実施した主な設備投資額は以下のとおりであります。

駅及び社屋の照明器具 LED 化	18,320 千円
3 駅空調機更新	45,500 千円
空港トンネル排水ポンプ取替	9,130 千円
2023 年 Suica 施策対応等に係るソフトウェア改修	13,000 千円

5 営業成績及び財産の状況推移

(単位：千円)

区 分	2020 年度 (第 21 期)	2021 年度 (第 22 期)	2022 年度 (第 23 期)	2023 年度 (第 24 期) (当 期)
営 業 収 益	540,706	659,638	907,538	1,054,949
経 常 損 益	△460,553	△347,525	△118,826	28,131
当 期 純 損 益	△484,407	△352,707	132,042	125,495
1 株当たり 当期純損益 (円)	△3,400.30	△2,475.84	926.88	880.92
総 資 産	6,383,087	5,895,987	6,104,538	5,850,333

II 会社の概況 (2024 年 3 月 31 日現在)

1 主要な事業内容

鉄道事業法による第一種鉄道事業及びこれに付帯関連する事業

2 主要な営業所

本 社 名取市杜せきのした 5 丁目 34 番地

3 株式の状況

(1) 発行可能株式総数	1 5 0 , 7 8 0 株
(2) 発行済株式の総数 (普通株式)	1 4 2 , 4 6 0 株 (自己株式 120 株を除く)
(3) 株主数	1 1 0 名 (自社除く)

(4) 大株主

株 主 名	持 株 数 (株)	議決権比率 (%)
宮城県	75,380	52.91
仙台市	22,800	16.00
名取市	8,620	6.05
東日本旅客鉄道株式会社	7,180	5.04
公益財団法人宮城県市町村振興協会	6,000	4.21
岩沼市	4,300	3.02
東北電力株式会社	3,000	2.11
仙台国際空港株式会社	2,400	1.68
株式会社七十七銀行	2,000	1.40
山形県	1,000	0.70

4 使用人の状況

使用人数	前期末比増減	平均年齢	平均勤続年数
51 名	2 名	37.47 歳	10.30 年

上記のうち 46 名は社員及び嘱託社員であり、5 名については東日本旅客鉄道株式会社からの出向社員であります。

5 借入金

借入先	借入金残高	借入先が所有する当社の株式	
		持株数	議決権比率
宮 城 県	千円 6,412,000	株 75,380	% 52.91
合 計	6,412,000	75,380	52.91

6 取締役及び監査役

(1) 取締役及び監査役の氏名等 (2024年3月31日現在)

会社の地位	氏 名	主 な 職 業 また は 担 当
代表取締役社長	笹 出 陽 康	
代表取締役専務	山 内 伸 介	
*取締役	池 田 敬 之	宮城県副知事
取締役	高 橋 新 悦	仙台市副市長
取締役	山 田 司 郎	名取市長
取締役	佐 藤 淳 一	岩沼市長
取締役	氏 家 照 彦	株式会社七十七銀行代表取締役会長
取締役	工 藤 英 明	東北電力株式会社執行役員宮城支店長
*常勤監査役	今 野 順	
監査役	林 健 一	仙台ターミナルビル株式会社専務取締役ホテル事業本部長 兼 ホテルメトロポリタン仙台総支配人
監査役	今 野 薫	仙台商工会議所専務理事
*監査役	坂 爪 敏 雄	株式会社仙台銀行常務取締役営業本部長

注1 *印は、2023年6月19日開催の定時株主総会において、新たに選任された取締役及び監査役であります。

2 監査役4名は、会社法第335条第3項に定める社外監査役であります。

(2) 取締役及び監査役の報酬等の額

区 分	支給人員	報酬等の額
取 締 役	2 名	1 3, 6 0 8 千円
監 査 役 (うち社外監査役)	2 名 (2 名)	1, 2 0 0 千円 (1, 2 0 0 千円)
合 計	4 名	1 4, 8 0 8 千円

7 会計監査人の名称

公認会計士 安斎勇雄事務所

公認会計士 安 斎 勇 雄